



表情は、コミュニケーションの必須アイテム

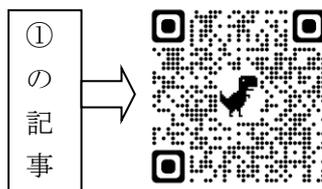
校長 間嶋 哲

6月1日から、校門前での朝の挨拶時、私は、マスクをあえて外すようにしました。

5月末に家庭向けの文書でもお伝えしたとおり、熱中症が心配される季節となり、登下校をはじめとした屋外の活動や、体育の授業では、原則マスク着用の必要性がないと、文部科学省の方針が変更されたためです。

約1か月経過した現在、場に応じてマスクを外している光景は、あまり見られません。報道等によると、これは全国的な傾向のようです。読売新聞でも、5月30日から『コロナ警告アラート～ゆらぐ対人関係』という連載記事がありました。一部、ネットでもご覧いただけます。4日間の見出しには、次のようなショッキングな言葉が並びました。

- | | |
|--------------|---------------|
| ①素顔 もう見せられない | 「マスク依存」交流の妨げ |
| ②口元見て 育つはずが | 発語・表情…「発達に不安」 |
| ③授業怖くて行けない | オンライン慣れ 孤独感強く |
| ④手を貸すのも「自粛」 | 感染リスク恐れ 踏み出せず |



①は主に青年期、②は幼児期、③は大学生を対象としていました。「このままじゃ、いけない」と、強く危機感をもちました。

マスクをつけることにより、顔の下半分が隠れ、表情を表しにくくなります。ある研究者の論文『表情認知における顔部位の相対的重要性（伊藤美加・吉川左紀子）』によると、顔の上半分で怒り・悲しみ・驚きを、下半分で喜び・恐怖を表出するそうなのです。『知性と笑顔』を学校経営のキャッチフレーズとしている私にとって、マスクによって「笑顔」が制限されることは、大問題なのです。

一度身に付いた習慣は、そう簡単には変えられません。しかし、子どもたちには将来、豊かな表情を自然にできる人、相手の表情を見て気持ちを押し量ることができる人、相手の立場に寄り添える人になってほしいのです。まずは、マスクの着脱を場に応じて適切にできるように、子どもたちへ声掛けをしていく予定です。

『水泳授業見守り隊』の皆さんの協力をいただきながら、プール水泳が始まりました。当然、そこにはマスクはありません。みんなが笑顔に包まれています。「楽しい」「気持ちいい」ということを、表情で互いに伝え合っていることは、人と人との温かな心をつなぐ大切な教育であるように思えてなりません。

学年の様子

第1学年「あさがおとともに」

1年学年主任 山之内 恵美

82名の元気いっぱい1年生！入学して3か月がたった今、いろいろなことができるようになりました。ひらがなやたし算、ひき算ができるようになったのはもちろんのこと、友達と話し合ったり、仲良く遊んだりしながら、人とのかかわりを深めています。学校のルールを知り、守ることの大切さも学びました。

最近では、生活科で大切に育てているあさがおがどんどん生長していることが一番の関心事です。これから咲くあさがおの花のように、82名のそれぞれの頑張りが光り輝きますように…！



第2学年「町探検と野菜作り」

2年学年主任 相田 洋輔

2年生は生活科で商店街へ町探検に出掛けたり、自分が選んだ野菜を育てたりしています。

町探検では、自分の知っている場所やまだ知らない場所に気付き、10月に行われるグループ別の探検に行きたいという思いを高めました。

野菜作りでは、ミニトマトやナス、オクラなど自分が好きな野菜を選び、毎日水やりを行い、育てています。日に日に大きくなる野菜に収穫の喜びを感じています。

2年生みんなで協力して楽しい学校生活を送っています。



第3学年「わくわくチャレンジ！」

3年学年主任 高橋 博恵

3年生は、2回目のクラス替えがありました。すぐ仲良くなり、協力して楽しく学習に取り組んでいます。理科・社会・総合・外国語などの初めての学習にも意欲を燃やし、復習したり疑問を調べてきたりと、自主的に取り組む姿が増えてきています。

総合の学習では、地域素材である秋葉山プレーパークで自然のよさに触れ、自分やみんなが楽しめる遊びを考え、試し、それを広げていこうと、活動を楽しみにしています。

